

大阪市内ベイエリアの将来的なあり方に関する懇談会における主な意見

○夢洲における万博レガシーの継承と発信について

- ・夢洲全体で万博の記憶や成果を日本世界に向けて発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能を導入していくことを評価する。
- ・夢洲第2期区域において、記念公園ゾーンとして、記念館を整備、管理、運営すること、大屋根リングの一部を残置するとともに、周辺エリアを公園等として整備・維持管理することについて、万博のレガシーの継承するうえで大変重要であり、前向きな姿勢だと認識している。後世に残るような施設や機能となることを期待している。
- ・万博は非常に影響力のある世界イベントであり、開催地の夢洲は付加価値が飛躍的に上がっている。また、万博は世界が認識しているコンテンツであり、これを踏まえて、記念公園ゾーンや民間開発ゾーンは万博で生まれた価値・ビジネス・文化交流などの成果を継承するものとしてほしい。
- ・大阪ヘルスケアパビリオンでは、大阪の多数の中小企業・スタートアップが参加し、イノベーションが生まれた。実際に、商品化にもつながっており、こうした成果を万博のレガシーとして継承したい。
- ・記念公園ゾーンについては、大阪ヘルスケアパビリオン跡地の開発、夢洲第1期区域(IR)など、周辺の区域と持続的で一体的な連携を期待する。
- ・大阪府市と関西経済界の総意として、記念公園ゾーンの整備などの万博のレガシーの継承に向けて、剰余金の活用について政府の成果検証委員会において提案し、しっかり議論する必要がある。
- ・なお、剰余金の活用においては、「中小企業・スタートアップによる共創・イノベーションの継続」のほか、万博で活発に行われた「国際交流」や、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」をふまえた「次世代支援」の観点も重要であり、バランスには配慮してほしい。

以上